

内閣総理大臣杯争奪  
第36回日本車椅子バスケットボール選手権大会  
個人トータル表

2007年5月4日 15時10分開始

決勝

東京体育館 M - 2

◎  
千葉ホークス  
(関 東)

68

14 1クォーター 10  
14 2クォーター 18  
26 3クォーター 12  
14 4クォーター 8

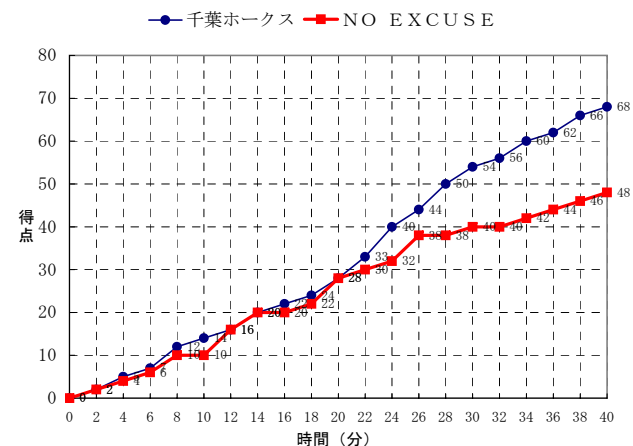
48

NO EXCUSE  
(東 京)

番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則	番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則
* 4	安 直樹 (4)	17	0	7	3	-	-	3	* 4	佐藤 聡 (1)	6	0	3	0	-	-	3
5	千田 佳輝 (2)	-	-	-	-	-	-	-	5	堀江 航 (4.5)	2	0	1	0	-	-	0
6	下村 浩之 (1)	-	-	-	-	-	-	-	6	石井 康二 (3)	-	-	-	-	-	-	-
7	田中 恒一 (3)	-	-	-	-	-	-	-	* 7	寺田 正晴 (3)	8	0	4	0	-	-	3
8	野沢 拓哉 (1.5)	2	0	1	0	-	-	2	* 8	大嶋 義昭 (1)	2	0	1	0	-	-	4
9	阿部 匡志 (2)	2	0	1	0	-	-	0	9	植木 敏也 (1)	-	-	-	-	-	-	-
10	千脇 貢 (2.5)	-	-	-	-	-	-	-	* 10	小山 文律 (4.5)	14	0	7	0	-	-	3
* 11	香西 宏昭 (3.5)	32	2	12	2	-	-	2	11	ラジッチ マイケル	-	-	-	-	-	-	-
12	田仲 幸生 (1.5)	-	-	-	-	-	-	-	* 12	菅澤 隆雄 (4.5)	16	1	6	1	-	-	2
* 13	森 紀之 (2)	2	0	1	0	-	-	0	13	及川 晋平 (4.5)	0	0	0	0	-	-	2
* 14	鈴木 明将 (3.5)	5	0	2	1	-	-	2	14	青木 彬 (3.5)	-	-	-	-	-	-	-
* 15	京谷 和幸 (1)	8	0	4	0	-	-	2	15	丸山 範晃 (3)	0	0	0	0	-	-	1
16	森 泰誠 (2)	-	-	-	-	-	-	-	16	佐藤 大輔 (2.5)	-	-	-	-	-	-	-
18	坂井 大 (2.5)	-	-	-	-	-	-	-	17	山野辺 鉄男 (1)	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	18	三浦 恭寛 (4.5)	-	-	-	-	-	-	-
コーチ	猪田 博敏								コーチ	及川 晋平							
Aコーチ	杉山 浩								Aコーチ	宮本 有里恵							
マネージャー	牛込 公一								マネージャー	杉山 美穂							
マネージャー	左東 摩子								マネージャー	農原 樹里							
マネージャー	浪川 明美								マネージャー								
合計		68	2	28	6	0	0	11	合計		48	1	22	1	0	0	18

主審： 杉山兼芳  
副審： 増竹 昇  
副審： 斎藤 登

得点経過



〔戦評〕

3年連続8回目の優勝を狙う千葉ホークスと、接戦をものにして勝ち上がり、初優勝を目指すNOEXの戦い。

1Q：NOEXが⑩菅澤から④佐藤への速いパスで先制。千葉も⑩香西のシュートですぐに同点に追いつく。序盤は⑩菅澤を中心に縦のスピードで勝負するNOEXに対し、千葉はコートを広く使い、スペースを作り出すゲーム運び。NOEXは千葉のディフェンスに少してこずるが、④佐藤⑦寺田⑧大島がうまく中へ切れ込み互角の戦い。残り3分、NOEX10-9でリードするが、千葉は⑩香西の3Pで逆転。さらに香西はミドルも決め、千葉14-10で1Q終了。

2Q：NOEX⑦寺田から⑩菅澤へ鋭いパスが通り得点。その後菅澤の3Pで16-16の同点に追いつくが、千葉は⑩香西のミドルで突き放す。ただ、千葉はゴール下へは入りきれず、やや攻めあぐねている印象。逆にNOEXが空いたスペースを有効に使い、④佐藤⑤堀江のシュートで同点に追いつく。その後千葉はミドルで、NOEXはゴール下への飛び込みで、ともに点を加え、28-28。まったくの互角で前半終了。両チームとも厳しいディフェンスで迫力ある好ゲームとなっている。

3Q：千葉のスローインで開始。1分、千葉はパス回しからゴール下へ飛び込んだ⑩鈴木へ④安がパスを通して追加点。さらに⑩香西の3Pで5点差とする。NOEXもすぐに点を加え、必死の食い下がり。3分半過ぎ、6点差となったところで、NOEX後半最初のタイムアウト。再開後、千葉はディフェンスをオールコートマンツーマンに切り替え、勝負をかける。NOEXもスピードで負けず、7分過ぎまでは何とか耐えるが、その後千葉のディフェンスが、じわじわと効きはじり、8分には一気に12点差。さらに終了間際にも点を加え、千葉54-40の14点差となる。

4Q：NOEXは流れを変えようと、⑩小山や⑩菅澤がミドルを狙うが、なかなか決められない。疲れからかゴール下のシュートもミスが目立つようになる。千葉は着々と点を追加し、残り6分で60-42。残り3分半を過ぎると、千葉はゆっくりとしたパス回しで逃げ切り態勢。NOEXは9分過ぎに⑩小山がミドルを決めて最後まで反撃するが、ラストは千葉が⑧野沢のみごとなパスカットから④安へつないでシュートを決め、優秀の美を飾る。68-48で千葉が3連覇を達成した。  
(文責:箱守 正治)